

## 令和6年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上), B:ある程度達成できた(60%程度), C:あまり達成できなかった(40%程度), D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見	
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	B	<p>【全体として】 限られた人数で業務を行うため、仕事の偏りがないように係を明確にすることが必要である。業務が多忙であっても、<u>教員同士のコミュニケーションがとれるような工夫や仕事の見直し</u>をしていきたい。異動などで人が入れ替わると業務の引き継ぎが難しくなるが、お互いが先を見ながら仕事をすすめていけるようにしていきたい。</p> <p>【生徒課】 大きな生徒指導はなかったが、ルールやマナーについて日常的に話をしていきたい。ICT端末の使用に関する指導が増加している。<u>ネチケットの遵守</u>を呼びかけたい。服装の規定を生徒の意見も取り入れつつ、緩和した。<u>生徒と教員が対話するスタンス</u>は来年度も持ち続けたい。文化祭の時期、開催、委員の任期を変更した。来年度は新しいことに挑戦していきたい。</p> <p>【教務課】 分掌構成員の顔ぶれに出入りがあり、「特定の誰かができる」から「複数の人間ができる」に少しずつではあるがシフトしつつある。各業務の支柱的な存在をここから数年かけ入れ替えていこうにし、ゼネラリスト育成を通し「みんなができる」方向性を指向することで組織の厚みを増していきたい。<u>特別時間割や試験監督時間割の作成については、余裕をもって取り組むことが必要である。</u></p> <p>【進路課】 「次の進路でも活躍するための基礎学力を育成する」という目標のため、3つの柱を立てた。(1)学習指導の後押し (2)進路指導のデザイン(3年間の計画) (3)情報提供 これらを進路課職員で協力して行った。<u>附属高校入試(3年目)の情報共有と指導の流れが確立し、およそ半数の生徒が常葉大学に進学する。また看護専門学校進学者も堅調である。就職希望者も全員希望進路に進んだ。</u></p>	R5 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中の変化に合わせ、学校も大きく変化する時期だと感じました。</li> <li>・自分たちの常識が通用しないところにきており、今後どうなるのか全く想像が付きませんが、良い方向になることを期待しています。</li> <li>・良いものは残し、新しいことを取り入れていくことは絶対必要。</li> <li>・少しの変化より、大きく突き抜けたことを実行することも必要ではないでしょうか。</li> </ul>
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	B	<p>【全体として】 教員同士、必要な情報共有ができるよう、良い方法を工夫していきたい。業務多忙を言い訳にしてしまうことがあるが、何をすべきか、どのように協力できるか周りを見ながら仕事に取り組んでいきたい。</p> <p>【高校1年】 学年で協力して何事も分業できた。様々な業務をみんなで快く引き受けられ、意見や考えを言いやすい学年団だった。クラスの様子、生徒情報を常に共有し、他のメンバーの視点を理解しやすく、教員同士コミュニケーションもよくとれており、風通しのよい働きやすい環境であった。業務内容もスムーズに行うことができた。</p> <p>【高校2年】 教員の数が少ないなか担任、副担任関係なく学年の生徒を全員で見ている感じがあった。生徒へ話をする際は、どのような生徒になってほしいかを常に頭に置き、話をするようにしていた。教員同士、協力的に業務に取り組んでいた。責任を持って果たすことができていたが、仕事が過剰になるとコミュニケーションに混乱が生じることがあった。</p> <p>【高校3年】 主任を中心に協力できたが、時に主任に任せきりのところがあった。意見しやすい学年組織のため、それぞれ、気が付いたところでフォローし合いながら、役割に責任を持って取り組んでいた。進路面では、もう少し協力体制が整っていた方が良かったのではないかと思うが、進路課中心に進路に関する様々な行事に取り組めた。就職希望の生徒も希望の職に就くことができた。<u>共通理解をもとに助け合い、仕事を確認しながら最善を尽くして取り組むことができた。他学年の先生方にも面接練習や論文指導など助けていただき、丁寧な指導をすることができた。</u> 学年として、教育活動をどの場面でもつつがなく進められていると思う。クラス経営で学年経営をサポートできた。</p> <p>【中学】 どの行事でも学年を越えて教員同士が協力しそれぞれが自分の仕事を責任をもってこなし、運営できた。<u>副担任が担任のサポートができた。</u> 担当学年の年間の流れを前もって先読みし、様々な場面で余裕を持って活動することができた。LHRも今年から担当制になり、何をやったか、どんな様子だったかを毎回教員団で共有できたため、とても上手く運営が出来た。互いに相談しながら、学年経営を行った。</p>	R5 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前の価値観が通用しません。改革していかなければならないということを実感しています。</li> <li>・若い世代の教員に仕事のリーダーなどを任せていくのは、良いことだと思います。改革の波が強烈に襲ってきている中での若い力は大きいでしょう。</li> <li>・若い世代の意見を上の方が理解し、変えていくことが重要です。</li> <li>・教員間の風通しの良さを感じました。組織力、チームワークの良さがうかがえました。</li> </ul>

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
	3	コース・系列運営	コース・系列組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	B	<p>【全体として】  コース・系統のやるべきことがはっきりしていない部分があるので、他の系列の姿勢や活動についてもっと知り、そこから学び、自分の領域に活かしていくようなことをしていかなければならないと感じる。しかし、どの分野も今できる最大限のことを行った。  今後はコース系統の特色をさらに出し、探究学習や連携講座で統括する教員だけでなく、それぞれの担当教員が積極的に活動内容の決定から関わっていければよりよくなると思う。  いち早く流れや雰囲気を理解できるようにアンテナを高く張りながら、コースの特異性を見出し、活かせるよう取り組んできた。  法学部とのゼミ、生徒会、大学学生会の連携など常葉大学との繋がりを強化してきた。今後も、高大連携を可能などから広げていきたい。  今年度新しく取り組みを始めたことが多く、同じコースの先生方の議論についていくことすら難しい面もあったため、今後、自発的な行動が必要だと感じている。</p> <p>【看護・医療・健康系列】  連携講座と探究では先生方と協力して1年を乗り切ることができた。探究フェアに引率して感じたことを来年度に活かしたい。  会議等を通してボランティアや施設見学、大会やイベント等の情報交換を行い、共有することができた。  受験対策や看護医療模試、講習や探求など協力して行うことができた。</p> <p>【保育系列】  分からないことが多くあったが、学年を越えて縦割りて系列に関わることができた。来年度は系列と探究の教員が同じメンバーになるとさらに活動が深まるのではないかと  思う。  縦割りで行っている探究の時間など、関わりがないところの活動が全く見えていない状況もあったが、連携講座は決められたことを遂行できた。</p> <p>【総合進学系列】  生徒の取り組みは大変良好であった。生徒の思考を深める活動ができたのではないかと。</p> <p>【特進コース】  特進の特色として①アドバンスゼミ(放課後補習)②特進アドバンスレクチャー(大学教授による講義)③模試の運営④総合的な探求の時間(social change)の計画と実施⑤進路ガイダンス⑥進路実現のための個別サポートなど充実した活動を行えた。次年度は、役割分担を明確にしNIEと国際関係に関する行事を充実させたい。また、地元国公立への進学実績を作るための行事を充実させるようにしたい。  特進コースとしての活動が幅広い進路選択につながったのではないかと。軌道に乗っている取り組みも多いが、「志セミナー」を新たな形で再開できるようにしていきたい。</p>	<p>・常葉といえば、保育というイメージがあります。そのため、保育系列の教育には一層期待しています。  ・令和8年度に向けての新しいプロジェクトが時代に合ったよいものとなるよう期待しています。</p>
教育活動全般	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<p>【全体として】  教科の運営に積極的に協力し、よりよい授業展開を目指した教科会議を行えた。</p> <p>【国語】  授業目的や指導方針、教材、試験問題等に関して活発に意見交換できた。  今後、授業改革を含めた、具体的な取り組みをしたい。</p> <p>【数学】  教科内で連携して、教科指導、ICT活用、テスト作成など、問題なく行えた。  研修を促すことや教科会議の中でICTの活用方法について検討した。  数学検定を呼びかけ、2度の実施の中で参加する生徒を増やす努力をし、数学の力を伸ばすきっかけづくりをした。  指導方法の検討や共有を積極的に行うことが出来た。ブラッシュアップしていけるように今後も努める。</p> <p>【英語】  限られたリソースの中で考え抜いて、生徒たちの学習がよいものになるように努力した。  全員で協力して勧めることはできていると思う。来年度は、計画的に取り組めるところには時間をかけて取り組み、教育活動の質を上げたい。</p> <p>【社会】  電子黒板の活用や探究活動などを積極的に行うことができた。  NIE活動の充実をめざし ①しずおか新聞コンクール(優秀賞1名、学校賞受賞) ②「天声人語」の見出し付け ③投稿 ④新聞記者の出前講座 (2)税の作文 (3)静岡市議会議員との意見交換会、静岡地方裁判所の出前講座など多くのことに取り組めた。こういった活動が今後の思考力の糧になっていくと考えている。</p> <p>【理科】  コンクールや活動の募集等の情報を共有し、備品の整理や清掃、準備の共有化、道具の作成、図書の注文などを行い、協力して進めることができた。</p> <p>【体育】  人数が少ない中、協力して行うことができた。体育祭、球技大会の準備は早めに行った。教科内で話し合ったことは実施することができた。  教科会議等を利用し、身体的配慮の必要な生徒の情報提供を必要に応じてできたため、大きなけがや事故なく体育の授業が実施できた。</p> <p>【芸術】  少ない教員だからこそできる細やかな指導ができた。</p>	<p>・中高生はもちろん、小学生のICTに対する知識、技術に大人は追いついていくことが難しいです。  ・大人の意識改革、学びが一番大切ではないでしょうか。これまでの常識にとらわれてはいけません。大人もともに学ぶ必要があるでしょう。  ・一番大切なことが私たち大人につきつけられていると感じます。  ・世代格差があります。以前はよかったことが、変わってきています。</p>

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
学習指導	1	学習指導	ICTを日常的に使いこなす環境を整え、授業改善に取り組めたか	B R5 なし	<p>【全体・研修】 ICT研修を職員会議後実施するようにした。短時間であったが、効果があった。 研修のおかげで少しずつ知識は増え、実践発表などを通して活用法について情報交換することができた。 様々な活用方法について思考し、教材作成にも積極的に取り組んだ 生徒自身が考えて練習する授業展開にした。 効率の良い授業展開が可能となり、生徒の理解を深めることにつながった。 ICT機器の利用はあくまで授業での目的ではなく、道具としての役割と考え、適切に使うことができた。 ICTを使用することが目的にならないようにしたい。</p> <p>【電子黒板】 電子黒板・デジタル教科書を活用することに慣れてきた。 電子黒板は授業の可能性を広げてくれ、様々な授業展開をする契機となっている。 双方向型アプローチの選択肢が増えることで活発な授業展開が期待できると思うので、ICTの活用法については更に模索していきたい。 画面共有機能などが備わっているため、グループワークやプレゼン・発表など、さまざまな学習活動を取り入れた授業展開が可能になった。 電子黒板の活用、学習教材の製作は来年度に向けてさらに取り組んでいきたい。 電子黒板にカレンダーを表示して提出物や行事の確認を行った。</p> <p>【iPad】 iPadの機能を利用して、自発性・能動性を高める授業を展開するよう心掛けた。 受験指導の際にも、志望理由書の添削、問題の解説等に活用できた。 生徒への連絡ツールとしてGoogle classroom を活用するようにしたことで、より確実な伝達が可能になった。</p> <p>【課題】 教員間で知識や技術に個人差があるので、もっと教師が使っていかなければならない。 ICTを「使いこなす」ところまでもっていききたい。 操作方法がなかなか覚えられない。 ICTが苦手な教員のフォローをする若手教員の負担が大きい。 まだ最低限の使い方(時計、調べ学習等)しかできていない。</p>	<p>・成績の規準をつくるのが目的になってはいけません。子どもひとりひとりをみとることが大事なことです。 ・教員は閉鎖的な社会に生きています。外へ出て、いろいろな人と会い、自身をアップデートしていく必要がありますが、その余裕がないのが現実です。余裕がないとは言っても、何をしたらいいか考え、できることから取り組むのがいいのではないのでしょうか。もっと研修等で外へ出て、多くのものにふれ合うべきだと思います。</p>
学習指導・教務関係	2	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	B R5 B	<p>【良かった点】 平素の学習成果をみとる「みとり」材料の内容をバージョンアップすることができた。完成形はないと思うので、見直しを続け、より良いものにしていく努力を続けていきたい。 電子黒板を活用して意見を共有したり視覚的な情報を増やすようにしたりして、分かりやすい授業となるよう心がけた。 iPad、スタディサプリの活用については充分に取り組めた。 中学では火曜・木曜の放課後はスタディサプりに取り組ませるなど、学習習慣の定着を図った。 ICT端末を使用した宿題の提出について、Class roomに統一するのか、Class Padも併用するのか、場合に依って使い分けて生徒の意見を吸い上げていきたい。 適切で妥当な評価となるよう普段から心がけるようになったと感じる。 小テストレベルのことについても細かく分析もすることで、一層の学力向上に繋がった。 小テストや課題テスト、問題演習を増やし、基礎力や実践力の向上を目指した。 教科書を終わらせるということだけではなく、身につけた知識を活用する問題を設定し解かせるようにした。 あたりまえを疎かにせず、授業の進め方、取り組みを確実に決めてから授業を行っている。 重要な部分を重点的に説明するよう心掛けている。 集中できない生徒には声をかけた。主体的に活動させるようにした。 机間巡視しながら個々の対応を心がけた。 静岡市議会議員との意見交換会、静岡地方裁判所の出前講座など「現場、現物、現人間(経験者、関係者)」にアクセスする学習機会を設定し、一定の効果を上げることができた。 低学年層は「学力の定着」の前に「学習習慣の定着」「課題提出の期限を守る」ことに終始した。対照的に高校3年生は、欠席した際には自ら提出物を持参したり、提出日に欠席することが予め分かっていたら事前に持ってきたりと、良い習慣がついている。</p> <p>【課題】 学習に対するエンジンを育てていきたい。 全ての能力の生徒の満足度が高まるよう、工夫していきたい。 板書や課題提出方法など、従来の方法に捉われず今後も思考錯誤していきたい。 タブレット導入により学習効率は良くなったが、一方で「書く力」が落ちたとも思う。 様々な取り組みはしているが、学力伸長の実感までは至っていない。 「できた」という達成感、目に見えた生徒の変化に結び付けていけないといけない。 授業準備以外に割く時間が多く、準備が整わないところがある。</p>	<p>・どうすることが生徒にとって良いことなのかを考え、評価するだけで終わるのではなく、改善につなげていくことが大事。必ず具体策をあげ、改善につなげてほしい。</p>



区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
生徒指導・総務関係	1	生活指導	生徒指導やマナー教育などを通して、生徒の社会性や自律性を養えたか	B R5 B	生徒指導から生徒支援という考えにシフトしてきている。生徒が自らより良い方向を指向するような方向を考えさせたい。 礼儀作法に則った言葉使い、態度が徹底しなかった。風紀の規則を見直した項目も多いため、分かりづらかった。 気づいたことは声を掛けてその場でなおさせ、大きな声で挨拶しようとクラスに呼びかけた。 言葉が足りず、生徒同士で誤解を招く場面が多い。以前よりも挨拶が増えたが、まだ徹底しない。 学校と生徒の価値観のギャップをどう埋めていくかが課題である。 生徒の様子をよく観察し、会話をしながら理解を深め、小さな変化を見逃さないようにできた。	・多様性が言われる時代、服装などどこまで許容できるか、教員の話し合いも必要でしょう。 ・指導ではなく、支援という考え方が良いと思いました。
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	B R5 B	教員の援助が欠かせない部分はあるものの、各所において生徒自ら企画を立ち上げ完成させる経験を積ませた。 クラスの活動では代表委員を中心に見守る程度にして、生徒に任せ、アドバイス程度で行えた。 部活動でリーダーが主体となって活動を行うよう心掛けた。 学校説明会などで生徒が中心になって進行する場面が多々あった。 生徒会、体育祭、文化祭などでリーダーが育ちつつある。一方で、前に出る生徒を育成できない。女子校ならではの育成ができると思うので悔やまれる。 探究活動はリーダーを育成できる機会なので、自分たちで企画し、活動に積極的に取り組ませたい。 文化祭や体育祭など生徒主導の活動が増えた。来年度は文化祭が大学と同日開催となるため生徒主体での活動が増やせるとよい。 受動的な姿勢の生徒が多い中、個々に明確に役割を与える必要がある。その生徒自身が自ら方向性を見出せるような声掛けをしたい。 生徒が主体となって取り組むことが増えている分、教員の負担が多くなっている。	・幼稚園でも小学校でも、園児、児童が自分たちで考え、行事を作り上げている。主体性を養えるよう工夫していったほしい。
	3	生徒指導	学校での活動を通し、生徒自身が良好な人間関係を築き、充実感、満足感を得られるよう導けたか	B R5 なし	人間関係で問題が起きた時には、教員の介入より、生徒自身が持っている正義感や倫理観を喚起し、自分自身で解決した達成感を味わえるようにする。 一人ひとりの役割を果たすことで、達成感を味わうことができるように導けた。 生徒の話を傾聴し、保護者とも連携を図って、生徒に居心地の良い環境を創出した。 生徒の人間関係トラブルに、教員集団が一丸となって対応した。 道徳や通信を通して担任が語ったことを生徒が自分の事として聞けるようになってきたことは大いなる成長。 生徒一人一人が存在感をもち、共感的な人間関係を育むことが求められる。生徒全員が主役を意識し共に伴走していけるよう今後とも取り組んでいきたい。 生徒の個性を尊重すること、お互いを認めることの意識が少しずつ高まっていると感じる。	・教員間でも意識の差、価値観の違いはあります。そこを、どうやって足並みをそろえていくかが課題ではないでしょうか。
	4	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	B R5 なし	生徒の自主性を意識し、ルールを決めることも生徒に判断を委ねた。全校生徒が共通認識で一つの事柄に向かえた。 生徒の活動の様子を客観的に見るにつけ、自発性という点において長足の進歩・成長を感じている。 部活動で頑張る生徒と、そうでない生徒の差が大きい。活動が活発になれば、生徒の活気、学校の明るさにもつながると思う。 生徒会の執行部は、学校外の団体との繋がりができたが、部活動の参加人数が減り、十分な活動に至っていない。 学業と部活動の両立をめざし、部活動でも課題への取り組みを確認した。 部活動の精選が必要と考える。 ほとんどの部活動は、活動時間が多すぎず、少なすぎず、生徒の生活に無理がない部活動だった。	・静岡市内公立中学校の部活動は、今後完全に地域に移行することになっていきます。今後どうなるのでしょうか。 →少子化に伴い、部活動の数は減少していくことは避けられないと思います。今後の部活動のあり方は検討していく必要があります。
	5	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	B R5 B	もともと清掃を熱心に行う生徒は多い。教員が率先垂範し、生徒の気づきを喚起するような指導を継続していきたい。 清掃活動は徹底させ、自分も教室の清掃をすることで生徒に掃除をさせることの大切さを伝えた。 教師の清掃への意識が様々で統一されていない。生徒数も多くないため、清掃のやり方の工夫が必要である。 クラスによって清掃指導に差があるので、教員の意識を統一させたい。 清掃する箇所を自ら率先して探せるような主体性が身についた生徒に育てたい。 清掃の不十分なところが散見されるので来年度は方法を考えたい。 清掃活動が徐々にいい加減になったが、修正することが出来なかった。	
	6	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	B R5 B	避難訓練も複数回実施し、そのうち1回は抜き打ちで行うことができた。また、教職員対象に防火施設の確認や降下避難の訓練、救急救命講習も実施するなど、訓練がより実践的になったと感じている。ただ、日常的な啓発については課題が残る。 前年度の踏襲で講座を開き、生徒に浸透したかなどの検証なく、こなしていった。講座を聞いた後の生徒の振り返りを充実させたい。 防犯情報、交通マナーは、毎回生徒への伝達を口頭で行った。 教員の防犯教室や避難訓練を実施し、防災・施錠の意識が高まっている。 普段から他県の災害情報を取り上げて生徒に話している。 詳しい避難経路図を教室に貼り、学校内の危険場所についてポスターを描かせた。 ハザードマップの確認、被災後のシミュレーションをさせた。 津波対策の避難の必要性は検討しても良いと思う。 防災の内容は授業でも何度も取り上げ、ニュースに出るたびに話題にしている。 日常会話の中で具体例を出して自分の身の守り方について指導している。	

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の質問・意見
進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	B R5 B	学年ごとに親子進路ガイダンス(高3:6月、高1・2:10月)を行った。必要に応じ、機を捉えた進路講話を行い情報提供や進路意識を高めていきたい。 高3年では、面接指導や小論文指導などをきめ細かく行った。また「進路の手引き」を作成した。担任からだけでなく学年・コースごとに情報提供していきたい。 高2では、進路ガイダンス(9月)での「学校比較」と「学校研究」では、常葉大学以外の進路先も考えさせることで視野を広げさせた。 <u>外部講師の話を素直に聞き、刺激を受けていた。</u> 高1では、「適性検査」から、夏休みの「職業調べ」とつなげ、冬休みに「常葉大学調べ」をさせることで進路意識を高めた。 オープンキャンパスへの参加やパンフレット請求を(ある程度)義務付けたり、情報提供(グーグルの活用)により進路を調べさせ、「こころざし」を高めた。大学のシンポジウムのな行事への参加を促したい。 特進コースは、静岡大学と立教大学の見学と都内の進路ガイダンスにも参加した。高い目標を設定させ挑戦させていきたい。来年度も訪問先を変更し実施したい。 進路が明確では無い生徒には、「連携講座」「学部・学科調べ」等を通じて視野を広げさせた。	・常葉大学附属だから常葉大学への進学を勧めるのではなく、しっかり進路研究をおこない、どの進路を選択するのか決めるように意識付けしているところが良いと思います。
	2	学力対策	基礎学力の定着と学習習慣の確立を可視化する仕組みを作れたか	C R5 B	確認小テスト、単元テスト、振り返りを行うことで基礎学力の定着を図り、習慣化につなげた。弱点の確認や次回の具体的な目標などについて、生徒・教員間で共有し改善に取り組めるようにしたい。常葉大学の附属だからこそ取り組める方法だと思ふ。 電子黒板、iPad等の電子機器の活用を進めたい。Class Padを使った課題提出も行った。動画や確認テストなど、学習材料は多くあるので、それをいかに利用し活用できるか模索したい 定期的スタディサポート、進研模試(ベネッセ)や小論文模試を入れて、意識を高めた。ただ分析が不十分なため次回の改善に反映されない。学習習慣と模試結果の「可視化」が課題である。 学習計画を立てる時間を確保したい。計画を立てるときに教員からアドバイスをすれば、取り組み方に変化があるのではないか。	・評価が厳しいのは、教員の危機感の表れてはいるでしょうか。
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	C R5 B	担任、担当の個人レベルではしているが、 <u>弱点分野の確認や具体的な目標については生徒・教員間で共有するまでは至っていない。</u> 教科で分析する時間を作らなければできない。 模試の分析をし、夏期補習の内容に反映させた。また、個票を活用し、生徒ひとりひとりに合ったアドバイスをした。 スタディサポートを年2回行い、基礎学力と学習習慣の推移を分析した。 <u>高1・2年生徒は学力伸長が見られた。</u> テストで終わりではなく、授業へ取り組む意欲が向上するよう工夫していきたい。 スタディサプリ(リクルート)が全学年利用できるため、 <u>今後は課題配信や、到達度テストを意欲的に取り組ませたい。</u> 模試の結果分析シートを用いて面接週間の中で学習方法のアドバイスができた。また生徒もグーグルフォームで反省をまとめ、次回のテストに向け計画的に取り組めるようになった。	・少人数で先生方が一生懸命なことがわかりました。 ・新しいものを取り入れ、生徒の自主性を育む。多様化している社会の中で、人として良い人生を歩めるように今後も指導を徹底してほしい。
	4	キャリア教育	連携講座(高校)またはキャリア講座(中学)の目的を理解し、生徒の取り組み意欲を向上させることができたか	B R5 A	<u>連携講座は常葉大学の先生方のご協力をいただいて、より探究的なものに深化している。</u> また、大学で学ぶ内容の「先取り学習」も行ってくれた。生徒が興味あるものを選んでるので、 <u>楽しみにしている生徒も多く、取り組みもよい。</u> レポートの提出状況もよい。 土曜講座のプレゼンテーションについては、まだまだ改善の余地があるので、早い段階から厳選し指導していきたい 中学の探究学習、キャリア教育は生徒たちの経験値を大きく上げている。「考える力」「伝える力」「チームで動く力」など様々な力を身につけ成長している。様々な職種や「大人」から話を聞くことで知識や理解が深まり視野も広がっていると感じる。	・多様化の時代、より豊かな人生をおくれるような芯の部分を大切に育ててほしい。
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	B R5 B	漢字検定は一斉受験を行っているため、合格に向けてプリントを配布したり、過去問を解かせたりした。学年としての取り組みと生徒の自発的取り組みを喚起させたい。そのため、放課後学習や課題を出すなどをした。 数検の受験希望者を増やしたい。 英検はライティング、2次面接対策を指導し効果を上げた。	・中学と高校で連携して検定を実施しているのが良いと思います。
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	B R5 B	三者面接、保護者会に加えて、小まめに連絡して情報提供をした。進路について具体的に話し、夏休みの過ごし方から、入試までの目標を設定し助言を行った。 必要だと思われることについては、保護者とこまめに連絡を取った。	